

平成 21年 5月 18日現在

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2006～2009

課題番号：18202013

研究課題名(和文) 英語スピーキング能力の測定と評価法の研究

研究課題名(英文) A Study on Measurement and Assessment for English Oral Proficiency

研究代表者

石川 祥一 (ISHIKAWA SHOICHI)

実践女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号：20320856

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：外国語教育

キーワード：(1) 外国語教育 (2) 大学英語教育 (3) 英語スピーキングテスト

(4) 測定・評価 (5) テスティング

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、(1) 日本の大学生の英語スピーキング能力の測定・評価に関する測定法とその評価基準の基盤作り、(2) この測定・評価を基に、大学生の英語スピーキング力を測定できるスピーキングテストの開発を検討し、試作版の作成。

2. 研究の進捗状況

1. に関連した大学生の英語スピーキング能力を測定・評価できる英語テストからデータを収集している。

2. については、日本の大学生の英語学力(話すことを中心として)についての評価方法の研究、並びに出た一他の収集を行ってきた。

3. 大学生の英語スピーキング力を評価する英語スピーキングテストの開発の研究を行ってきた。

3. 現在までの達成度

(1) 全国の大学生のテスト受験データの収集、及びテストデータの分析を行って国内外の関係学会で発表している。

(2) ACTFL, CEFR, ESOL, カナダなどの productive skills に関する評価基準等の研究を行い、資料等の収集に努めた。これ

を基に、大学生の英語スピーキング力の測定・評価に使える評価基準等の作成を検討している。

(3) 大学生版英語スピーキングテストの開発のための研究として、市販英語テストの内容、及び評価方法等の検討を始めている。

4. 今後の研究の推進方策

上記3点について、この年度内の達成目標としている。研究分担者、及び連携研究者、研究協力が各目標を達成できるよう分担研究を行っていくよう考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 件)

[学会発表] (計 5件)

1. 石川祥一, 中村優治, 杉森直樹, 伊藤泰子, シュナイダー・デニス

「コンピュータによる英語スピーキング能力の測定」2008PCコンファレンス, 平成20年8月, 慶應義塾大学

2. ISHIKAWA,S. NAKAMURA,Y., SUGIMORI,N., ITO,Y.,Shneider,D.
Measuring Japanese University

Students' English Proficiency:
A Case Study, AILA World
Congress 2008, 平成20年8月, ドイツ・エッセン

[その他]

3. 石川祥一, 杉森直樹, 伊藤泰子,
「スピーキングテストによる日本人
大学生の英語学力の評価」大学英語教
育学会第47回全国大会, 平成20年9
月, 早稲田大学

4. ISHIKAWA, Shoichi.
Education for International
Understanding from the
Perspective of English Education in
Japan, 「国際理解教育と日本の英語
教育」韓国国際理解教育学会・ユネス
コアジア太平洋国際理解センター第9
回学術大会, 平成20年11月, 韓国忠
南大学

5. ISHIKAWA.S. NAKAMURA.Y.,
SUGIMORI.N., ITO.Y.,
Shneider.D.

A Computer-Based Measurement
and Analysis of English
Speaking Skills: A Case Study,
平成20年11月, Jakarta, Indonesia

[図書] (計 1件)
研究代表者 石川祥一・実践女子大学人
間社会学部
『英語スピーキング能力の測定と評価
法の研究』平成20年度研究中間報告書
, B5判 126頁

[産業財産権]
○出願状況 (計 件)

○取得状況 (計 件)